

様式2

令和6年度 小林市立西小林小学校 学校関係者評価書

4段階評価

4 期待以上

3 ほぼ期待どおり

2 やや期待を下回る

1 改善を要する

学校経営ビジョン	『子どもたちが安心して生き生き学び、のびのび活動する、魅力ある教育の構築』 すべては子ども達のために チームにっこば 心は一つ！～共に知恵を絞り 共に汗をかき 共に喜び合える学校をめざして～
----------	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	<p>重点目標 知の基盤づくり (確かな学力の育成)</p> <p>手段</p> <p>1 基本的な学習態度の構築と主体的な学びにつながる授業の工夫改善</p> <p>2 知識・技能の確実な定着とそれらを活用し課題解決する力の向上</p> <p>3 言語能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が好き」「知的好奇心が旺盛」「将来の夢がある」等の「学びたい度」は91%~84%であり、今後は児童の主体性の育成を目指した授業改善に力を入れていく。 地域人材・素材は、地域の方の多大な協力のもと活用できた。 みやざき学力調査、全国学力調査の分析を行い、授業改善につなげることができた。県平均を上回ることを目標にしていく。 週末は宿題を廃止して児童各自がそれぞれの課題に時間をかけられるようにしたことで、主体的に家庭学習に取り組む児童が増えてきている。今後も保護者へ丁寧に趣意説明し理解を得ながら、課題に取り組ませるための手立てを工夫していく。 全職員、全学級で授業のユニバーサルデザインを意識し、教室前面掲示は全学級で統一でき、視覚的刺激量を減らすことで落ち着いた学習環境が実現できた。 授業では、知識・技能の確実な定着を目指すために、タブレットPCの活用を進めることができた。持ち帰りを段階的に実施し、3年生以上は家庭に持ち帰る体制が構築できている。ドリル等の宿題にも活用が図られているが、効果的な活用を今後も考えていく必要がある。 家庭読書については、一定の効果が確認されたが、家庭で本を読む児童が少ない現状がある。週末までに図書室で本を借り週末持ち帰って本を読むことを意識させていくなど、家庭での読書量を増やすための工夫に取り組んでいきたい。 毎月の読み聞かせを計画通り実施できた。児童は毎回ボランティア・中学生・校長による読み聞かせに楽しく参加できた。いろいろな本に触れるよい機会となっているので、今後も継続していく。 新聞を活用した全校放送は、新聞の内容を事前に読み込みコメントすることで、全校児童へ社会情勢への興味関心をもたせることができた。 学校図書館協力員と連携し、児童の興味関心を高めるような図書室設営、企画を行うとともに、学習センターとしての機能を高めるための工夫を行った。授業でも活用する場面が増えている。 	3 (3.0)		<ul style="list-style-type: none"> 手を挙げ発表、質問する人が多いのに驚きました。 “学校が好き”最も大切なことで楽しく登校する、西小林小学校の児童が、全員楽しく学校生活を送ってほしいと心から願っております。 タブレットを有効活用されていて、よいことだと思います。必ず必要になるので小学生から使えるようになるととてもいいことだと思います。 タブレット端末を活用した授業は生徒の興味・関心を助長し、学習意欲が高まる方向へ向かうことを期待します。 孫も学校が楽しいと言っております。先生方のいろんな取組のおかげだと思います。 新聞をやめる家庭が増えているので、学校で使っていくということはよいことだと思います。いろいろな方法で活用していただきたいと思います。 週末宿題廃止にして成果が上がっているのでしょうか。児童の心のどちらも気になります。 西小林はPTA、地域の方々のまとまり、団結があると思います。 ボランティアの皆様には感謝です。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
德育	<p>重点目標 徳の基盤づくり (豊かな心の育成)</p> <p>手段</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣の定着、思いやりの心の育成 2 望ましい人間関係の醸成 3 活力ある地域の人財としての児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の登校班への指導や児童会活動等を通して、気持ちのよいあいさつをしようとする雰囲気ができた。児童会中心のイベント「挨拶の木」を実施するなどし、進んで挨拶や会釈をしようという意識が芽生えている。地域で気持ちのよいあいさつができるよう、継続して指導していく。 チャイム默想は、児童の発達段階に合わせて意義まで含めて指導していく。 児童会中心の「ありがとうの木」を実施し、児童同士の望ましい人間関係の醸成につながった。 毎月スマイルアンケートを実施し、児童の心の様子を全職員で把握するようにした。気になる児童については、ケース会議を開き、組織で指導に当たることができた。 スマイル委員会（いじめ不登校対策委員会）を定期的に実施し、早期発見、早期解決を心がけてきた。不登校につながるような大きなトラブルは発生していないが、今後もきめ細かな観察を継続し、生徒指導主事を中心としたチームとしての対応を行っていく。 関係機関との積極的な連携により、保護者の願いや思いを把握し、児童の支援に生かすことができている。 4～6年生対象の非行防止教室で、校長と養護助教諭によるスマートフォンやゲーム等、ネット・メディアとの関わりについて授業を行った。事前に実態調査を行い、授業は家庭にも協力をいただき、家庭での使い方のルールについても改めて話をしていただいた。今後も生活習慣の改善を含めて学級懇談会等で啓発を図っていく。 3～6年生対象にメディアとの向き合い方について、警察の方に講話をしていただく予定である。（2月） <ul style="list-style-type: none"> 児童総会を踏まえ、子どもが自治活動を実践する場を確保している。気持ちのよいあいさつができる児童が増えるなど、活動の成果が少しずつ表れてきている。 年度初めに、児童集会でどのような学校にしたいか話し合った。「進んでボランティアをしよう」「名前を呼んであいさつをしよう」「ありがとうがあふれる学校にしよう」というスローガンを決め、1年を通してスローガンをもとにした児童会活動を行うことができた。 委員会活動では、始業時刻前に活動する委員会があったため、活動時間について見直しを行っていく。 米作りでは、JA青年部やPTAの協力の下、充実した活動ができた。下学年においても総合的な学習の時間等で講話を依頼するなど、地域と連携した取組を行っている。 各学年の教科の学習で利用する図書を整理することにより、学習センターとしての学校図書館の機能を高めることができている。授業での図書室の利用が図られている。 	3	3 (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の行き帰りであいさつをしてくれる。 ○ 朝の登校も一列に整列して歩いています。あいさつも気持ちよくしています。 ● 登校班で朝通学するとき、上級生が後ろ向きで歩いて行く姿を見かけます。危ないので、そこまでする必要はないと思います。 ○ 今年は米がとても高い値段がついたので、米作りをされていることはとても良いことだと思います。ありがたくいたく気持ちが出てくると思います。 ● 高学年になると、特に女子はグループができがちなので、一人にしない仲間はずれがないように観察をお願いします。 ● 親がスマホ依存になっている傾向があり、子どもより親への啓発、協力が必要だと思います。メディア指導員の活用もありだと思います。 ● スマイル委員会知りませんでした。 ○ 「ありがとうの木」の取組であいさつの輪が広がっている。継続して取り組んでほしい。 ○ ジェナの森冒険遊び場でご飯作りの手伝いをしてくれるようになった。 ○ 小さな子どもと遊んでくれる様子も見られます。 ○ 放課後子ども教室のとき、子どものけんかが始まり、子ども同士で仲裁入り、けんかを収める様子がみられました。 ● 米作りではJA青年部の協力の下活動していますが、食に関してはJA女性部も一緒に活動させていただきたいと思います（希望）。これから先けやき祭りで地区別餅つき等を行うなら女性部は必要ないかもしれません。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体育	<p>重点目標 体の基盤づくり (健やかな身体の育成)</p> <p>手段 1 体力の向上 2 健康的な望ましい生活習慣の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5月に実施した体力テストでは、下学年と5・6年女子のみ体力合計得点が県平均を上回った。改善が必要な立幅跳びについては、11月に再調査を行い、強化を図った。すべての学年で記録の伸びが確認された。主運動につながる補助的な動きを繰り返し行うなど、体の使い方や動かし方についても継続して行うことにより、記録向上が見られることを再確認した。握力を上げるためにハンドグリップを廊下に設置したり、反復横跳びの練習場を確保したりできた。今後も、全教育活動を通して体力の向上に努めたい。 体力向上プラン（スクールスポーツプラン）には、今年の課題や対応策を具体的にまとめているので、職員の周知と理解を徹底していく。 朝の「学級の時間」を活用して外遊び（なわとび等）を計画する。 春季大運動会は、開催や実施の在り方について PTA アンケートを実施した。アンケート結果を参考に検討を行っていく。 立腰については、全学年全学級で取り組み、号令時は徹底され一定の効果を上げている。授業中は文字を読み書きするときの姿勢に気を付けさせ、目が近くならないよう 30cm ものさし等を活用して適切な姿勢を意識させていく。年2回机・椅子の高さ調整の時間を確保していく。 「早寝・早起き・朝ごはん・歩いて登校」への保護者の理解は良好である。アレルギーや疾患など、児童の健康に関する情報を最優先に、家庭と連携していく。 むし歯治療率は上がらないが、罹患率は減少傾向にある。フッ化物洗口は計画的に実施できた。むし歯を防ぐ指導も強化していく。 	3	3 (3.16)	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上にいろいろ努力されていてよいことだと思います。昔はなかったので、今の小学生は恵まれていると思います。今後も進めていただこう期待しております。 登下校時のあいさつがとても良いと思います。 昼休み時間などに校庭で元気よく走り回る姿を見ると、学校生活を十分楽しんでいる様子が感じられます。 児童の健康に関する情報を保護者、学校ともに情報を最優先に連携を図る。 茶飲ん場の日に外で遊ぶ子どもが増えた。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
食育	<p>重点目標 食の基盤づくり (健やかな身体の育成)</p> <p>手段 1 将来にわたる望ましい食習慣の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> 給食時間や学級活動を通して、食に関する指導を推進している。 食物アレルギーの児童については、家庭及び給食センターと密に連携しながら事故が起こらないように徹底できた。保護者及び児童本人の了承が得られれば、他の児童にも周知し、該当児童が除去食を摂ることやおかわりをできないことなどを担任以外も理解し事故防止に協力できるようにする。 家庭での調理体験は、夏休みに無理のない範囲で行うこととしたところ、保護者の反応はよかったです。 残食についてはどの学年も、ほとんどゼロになっている。学年による差が多少見られるため、食育指導を更に充実させていきたい。 小食傾向学年では、給食センターと連携し、事前に量を調整し児童に食べ切る成功体験をもたせる。 保護者向けに肥満対策、食習慣について栄養士の講話を提供できた。 	3	3 (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> 給食試食ではとてもおいしくいただきました。 生きていくための食の大切さ、給食をありがたくいただくことを、常に心してほしいです。 小学生の朝食は何を食べて来ているのか気にかけます。昔はごはん、味噌汁でしたが、パンでしょうか？ 今後も様々な専門分野の方を招きながら健康・安全に関する危機回避能力の育成に努めていただきたい。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
その他	<p>重点目標 保護者や地域と協働で子どもを育て、相互に信頼し合える学校づくり</p> <p>手段</p> <p>1 働き方改革による風通しのよい職場環境づくり</p> <p>2 学校の支援体制の確立</p> <p>3 魅力ある参観日の実施</p> <p>4 学校の魅力を情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なメンタルヘルスチェックを実施し、職員が相談しやすくかつストレスを開放できる体制を維持・継続することができた。 週2日のリフレッシュデーを設け、職員がワークライフバランスを保てる職場の雰囲気を醸成できた。 事例に基づいた具体的なコンプライアンス研修を定期的に実施し、全職員がコンプライアンス意識を高め服務規律を守ることができた。 今後も整理整頓をはじめ職場環境づくりを前向きに進めていく。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 創立150周年記念式典、記念事業を、学校部分林基金運営委員会の協力を得ることで、全校児童、保護者、来賓の参加で盛大に実施できた。 にっこばまちづくり協議会による「にっこば茶のん場子ども教室（通称：茶飲ん場）」を毎月第1・3水曜日に実施している。児童は楽しく放課後の時間を過ごし、地域との交流の場になっている。 一昨年度までPTAのみだった門松作りは、今年度もにっこばまちづくり協議会の協力を得て、茶飲ん場の時間に児童と共に実施できた。 J A青年部やPTA専門部の協力を得て、今年度も5年生で米作りを計画的に行うことができた。収穫したもち米は販売計画を立て販売し、今年度は餅を作って食べるところまで体験し、生産から消費まで一連の流れを体験できる貴重な学習となつた。今後も生産から消費までの喜びを実感できるような取組を継続してきたい。 今後も各関係機関、学校支援ボランティアとの連携を図っていく。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 計画通り年4回の参観日（懇談は3回）を実施することができた。 授業参観率85%は達成できたが、学級懇談率80%は達成できなかつた。 保護者へ積極的に参観日及び学級懇談の内容を伝えると同時に、魅力ある内容を計画するようにしていきたい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 学校便り「けやき」を毎月発行し、各家庭、各地区およびJA、郵便局に配付している。 学校ホームページを毎週1回以上更新し、情報発信している。今後は各種通信等のデジタル化も視野に入れながら、保護者への情報発信の在り方についても検討していきたい。 	3	3 (3.16)	<ul style="list-style-type: none"> 創立150周年の記念グッズを地域の方々にも配付していただき、ありがとうございました。喜んでおられました。 創立150周年記念式典事業が盛大に実施されてその中に参加できてよかったです。 毎月の学校だよりを発行していただき、地域の方々も学校の様子がよく分かっていると思います。カラーをふんだんに使ってあるので、とてもインパクトがあると思います。 学校だよりを楽しみにしています。 職員のワークライフバランスは大切なことである。PTAのバランスは低下していると思う。PTA活動参加など難しい面もあった。 1月30日付宮日新聞の「茶の間」に寄せられていた教師の方の投稿読みました。本当に大変なお仕事だと思います。 職員のワークライフバランスの取組は、非常に良かったと思います。先生方の心身共に健康であることが、子どもたちにとっても大切なことであると思いますので、頑張りすぎずリフレッシュしながら、できる限り働き方改革を推進してほしいと思います。 もち米作りにJA女性部もぜひ参加させてほしい（餅つき等）。 ジェナの森、放課後子ども教室を始めて5～6年になりますが、少しずつ遊びの工夫をするようになったと思います。 スタッフは高齢者が多いので、子どもたちと交わることで元気をもらっています。 地域活動を通じて、学校に行けない子ども、家庭に問題のある子どもたちを少しは知ることができました。解決するのは難しいのですが、少しでも力になれる部分があればと思っています。

次年度の方向性についての校長所見

本年度は創立150周年記念行事（式典）開催に向け、地域、保護者と連携した取組を実施した。児童、教職員、保護者、地域が一体となり挙行できたことは、大きな成果であった。また、学校運営協議会等、地域との協議の場で学校への提案、協力を頂けたことは、今後につながると考える。これも、保護者や地域の方のご理解とご協力の賜であると感謝している。今後明らかになった課題解決に向け次年度も努力していく所存である。学校関係者評価を受けて、次年度は次の点において重点的に取り組んでいきたい。

- 確かな学力の育成
 - ・主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童の育成（授業改善、家庭学習の充実、キャリア教育等）
- 豊かな心の育成
 - ・思いやりの心をもち、主体的に活動する児童の育成（スクールワイドPBS、安全安心な居場所づくり、人権教育、防災教育等）
- 健やかな身体の育成
 - ・体力向上や健康に関心をもち、主体的に行動する児童の育成（基本的な生活習慣、家庭と連携した健康教育、望ましい食習慣等）
- 地域との連携
 - ・地域を愛し、地域の一員として活躍する児童の育成（地域伝統芸能の継承、地域防災、地域学習、キャリア教育等）